



あなたも
チャレンジ

家庭菜園



園芸研究家
成松次郎

キャベツ 病害虫の予防を万全に

図1 ポット育苗

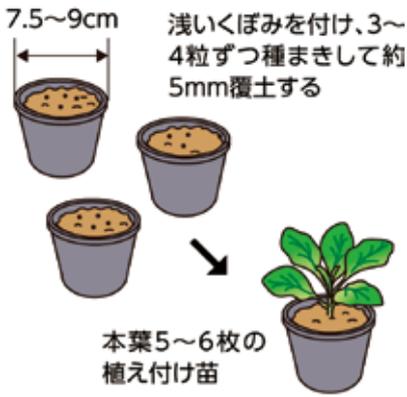


図2 種まき

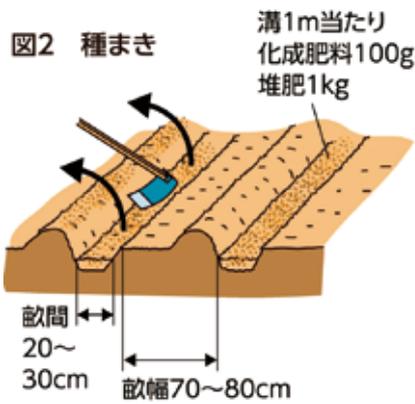
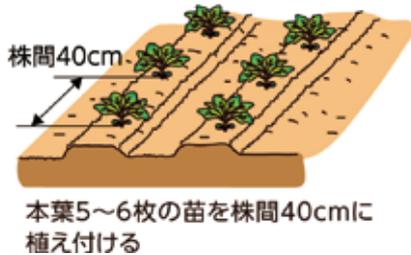


図3 植え付け



キャベツは冷涼な気候を好み、生育適温は20度前後ですが、初期は高温や低温に強い野菜です。一般地では夏まき秋冬取りが最も作りやすい時期です。

【品種】 サラダ、煮物などに万能の品種が主流で、病気に強い品種を選びましょう。秋取りに適した早生品種の「初秋」(タキイ種苗)、「新藍」(サカタのタネ)は葉が柔らかい良食味品種です。冬取りには中晩生種で甘味のある「彩音」(タキイ種苗)、「冬藍」(サカタのタネ)もお薦めです。

【栽培期間】 一般地では、早生種は7月上旬~下旬に種まきし種まき後90日程度、中晩生種は7月下旬~8

月中旬に種まきし120~150日で収穫できます。

【苗作り】 少量の苗を作るには7.5~9cmのポリポットを使うのが便利です。1ポット当たり3~4粒まき、本葉2~3枚で1株になるよう間引きします。苗作りの期間は30日程度で、寒冷しゃなどで害虫の飛来を遮断します(図1)。

【畑の準備】 畑1平方m当たり苦土石灰100g程度をまき、よく耕します。畝幅70~80cm、深さ20cmの溝を掘り、この溝1m当たり堆肥1kgと化成肥料(N:P:K=12:8:12)100gを施し、土とよく混ぜて畝を立てます(図2)。

【植え付け】 本葉5~6枚の頃、株間40cm程度に植え付けます。このとき、植え穴を掘り、穴に十分水やりして、活着をスムーズにさせます(図3)。

【追肥】 本葉10枚の頃、株の周りに化成肥料を1株当たり10gくらいまいて、株元に土寄せします。2回目はその20日後に同量を畝の両側にまき、土寄せをします。

【病害虫の防除】 ヨトウムシ、コナガ、アブラムシが多いので、ジェイエース水溶剤などで駆除しますが、生育初期はネット栽培で予防しましょう。葉先にくさび状の病斑を示す黒腐病にはズボルドーなどで予防します。

【収穫】 球が肥大し、やや堅く締まってくれば収穫期です。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。



ベランダでできるキッチンガーデン

リーフレタス

(キク科アキノノゲシ属)

土壌医 ● 藤巻久志

レタスは玉レタス、リーフレタス、コスレタス、莖レタスの四つに大きく分類されます。キッチンガーデンにはじかまきができ、病害にも強く生育が早いリーフレタスがお薦め。

日当たりの良いベランダに深さ15cm以上のプランターを置き、市販の培養土を入れます。条間15cmの筋まきをします。好光性種子なので覆土はごく薄くし軽く鎮圧します。種が流れないように、発芽するまでは霧吹きなどで優しく水やりします。

発芽したら細い物や徒長した物などを間引き、株間を15cmにします。水やりは朝にし、夕に土の表面が乾く程度に。追肥は1週間置きに1000倍の液肥を施します。

本葉10枚以上になったら、株ごと抜いて収穫するか、下葉からはさみで切り取りながら利用します。

リーフレタスは玉レタスより栄養価が高く、カロテンを多く含んでいます。生のままサラダにして食べるのが一般的ですが、炒め物、スープやみそ汁の具、チャーハンなどにもおいしく使えます。

